

道徳通信

能美市立辰口中学校 平成28年 6月23日(木) NO. 3



6月の心のテーマ『友情と信頼』

加賀地区ブロック大会お疲れさまでした。きっとそれぞれの舞台で「熱き辰中魂」を見せてくれたことと思います。6月の心のテーマにあるように部活動で培った『友情と信頼』をぜひこれからも大切にしていて下さい。中学校での友情は、一生のものとなるでしょう。ちなみに、来週末には期末テストが迫っています。何かと慌ただしい毎日ですが、時間をうまく使い、勉強と部活動を両立していきましょう。

今回の通信では、心のテーマ『友情と信頼』にちなんで各学年が実施した授業の内容をご紹介します。

3年生:105キロの友情～6人で挑んだ強行遠足～



<資料について>

NHKEテレ「ティーンズプロジェクト フレ☆フレ」(10代の若者を対象としたドキュメント番組【2013年11月放送分】)を活用し、山梨県の甲府第一高校の強行遠足を取り上げた。この遠足は、1924年(大正13年)から続く伝統行事で、2013年時点で83回目を迎えている。完走率は、約50%という超ハードな行事だそうだが、今回の内容は、単にゴールすることが目的ではなく、同じクラスの仲の良い6人が「6人一緒にゴールすること」を目指して奮闘する様子が描かれている。『友情』とは何か、を再確認できる資料となっている。

<授業の感想>

①甲府第一高校の105kmの「強行遠足」について、どんな感想を持ちましたか。

- ・1人だったら絶対ゴールできないような苦しいことも、友達となら頑張れることが分かり、友情はすごいと思いました。
- ・最初は嫌かもしれないけど、ゴールしてみると最高だと思える遠足だと思った。
- ・とても道のりが長くて大変そうだった。
- ・自分だったら辛いし嫌だけど、絆が深まるので良いと思いました。
- ・きつそうだけど、やってみたいと思った。
- ・僕も行きたい!!

男子生徒の中には「やってみたい!」という意見もちらほら・・・

②へとへトになってゴールした6人にあなたは何を感じたでしょうか。

- ・途中、心が折れそうになった人もいたけれど、そんな時は支え合って6人全員でゴールしたことに、「仲間との絆」を感じた。
- ・「やり切った!!」という達成感。 ・6人の信頼関係がとても強いんだなと思った。
- ・「友達との助け合い」があって出来たゴールだと思った。
- ・1人1人がお互い(みんな)のことを信頼していると思いました。
- ・6人の友情の強さ ・友情って、すごい!! ・仲間の大切さ

③これから向け、「仲間とともに頑張れること」は何ですか。(※そのことを踏まえた全体の感想)

- ・今日のVTRを見て、運動会や文化祭、部活動など今年は中学校で最後の行事がたくさんあるので、助け合って成功させたいと思うし、受験も個人のことはあるけど、全員で目標を達成できるようにしたいと思った。
- ・1人ではできないことでも「仲間がいれば頑張れる」ということだと思いました。また、1人が遅れだしても、みんなで「頑張れ」や「大丈夫か?」などの優しい声かけをたくさんしていたので、思いやりがあるなと思いました。
- ・仲間とともに頑張れることはたくさんあると思います。なぜなら一人で頑張れることの方が少ないからです。これから私がみんなと一緒に頑張りたいのは「受験」です。1人ではあきらめてしまいそうなときも、仲間と支え合って、努力していきたいです。

級外の先生方も「道徳」の授業をしています！！（3年編）

辰口中学校では、担任の先生だけでなく、級外の先生方も道徳の授業をしています。

3年生では、6月8日（水）に3年級外である4人の先生方がそれぞれ副担任をしているクラスで道徳の授業をしました。（※どの資料も今月の心のテーマや行事等に合った内容になっています。）

3年2組 北田先生『紙やすり』

この資料は、中学1年生の典子が主人公である。典子には一恵という親友がいる。典子は美術を得意としているが、苦勞して作った作品を一恵に汚されたことから「気をつけて！」と発してしまふ。一恵のしぐさと自分の内面を見つめることを通して、望ましい友人関係の在り方を考えていく典子の姿が描かれている。

無意識のうちに出てしまった言葉が相手の心を傷つけてしまったという後悔の気持ちや、一方では言ってしまった自分を正当化しようとする主人公の気持ちに授業を受けた生徒たちはとても共感していました。



<授業の感想>

- ・6限目の道徳を通して、私は、友情はとても素敵だと思いました。私も今の自分を支えてくれている大切な友達と一緒に、大人になっても良い関係を築いていきたいと感じました。
- ・今日の道徳で「本当の友達」の大切さに気がきました。

3年3組 広瀬先生『補欠』



加賀地区ブロック大会を前に、部活動に関するお話を読み、みんなで考えを深めました。

この資料は、野球部の中学2年生 勝くんのお話（生徒作文）である。（※辰中生ではありません。）レギュラーを目指して日々の練習を頑張っていたが、メンバー発表の日、監督から「補欠」と告げられる。「どうせ補欠だもの」と練習に身が入らない日が続いたが、教室に貼られた『今をどうするか』という言葉をきっかけに、再び練習に励む。こうして大会当日、代打としてバッターボックスに立った勝くんは、見事ヒットを放つのであった。

3年4組 辰野先生、3年5組 柿谷先生『ライバル』

「みんなが思い浮かべる“友達”って？」

単に、休み時間に遊ぶ、お話をする、仲良し…な関係だけが「友達」ではありません。お互いを高め合い、励まし合い、成長していく…そんな友達関係もまた素敵な「友情」です。

3年4・5組では、『ライバル』という資料を使い、様々な視点から「友情」を見つめ、互いに意見を交流しました。



2年生:「求めてばかりじゃないで」



<資料について>

本資料は、筆者（三屋裕子さん）がくじけそうになったとき、友達の忠告や励ましを受け、立ち直っていく過程と、逆に友達に対して相談相手になっている様子を描いたものである。題名の「求めてばかりじゃないで」という言葉を中心に筆者と江上由美さんとの友情が深まっていく過程を通じ、真の友情とは何か、友情を育てる上で何が大切か、を考えた。

<授業中に考えたこと>

親友って、どんな友達のこと？（一部抜粋。授業の最初に聞いてみました。）

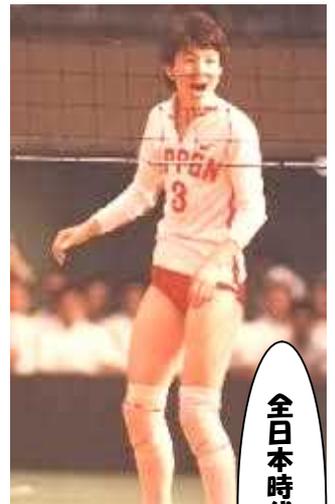
- ・何でも言い合える人。 ・その人といると、どんなことも乗り越えられる。
- ・そばにいと安心できる存在。 ・何でも話し合える。 ・信頼できる。 （↓三屋裕子さん）
- ・どんな状態になっても仲がいい。 ・親のように親しい友達。
- ・自分のことをわかっている友達。

お話を聞いて…本当の友達（親友）って？（一部抜粋）

- ・友達の話していることを一生懸命聞いて、相談にのる。
- ・笑いあうときは一緒に笑って、悲しいときは一緒に泣く。
- ・自分が信頼できる人。自分も何かできないか考えられる人。
- ・悩みを聞いてくれる人。駄目なことは駄目だと叱ってくれる人。
- ・困った時に近くににいる人。・相手と同じ気持ちになれる人。
- ・裏切らない人。・心を察してくれる人のこと。同じ温度になれる人。

授業の感想

- ・友達を大切にしようと思った。 ・私もこんな友達になれたらいいなと思いました。
- ・相手の気持ちを考えたい。 ・親友って難しいと思った。
- ・今まで考えたことのなかった親友について考えることになった。
- ・自分は友達の役に立てているのかを考えようと思った。
- ・親友を作ることはすごく大変だと思った。 ・親友は誰か、改めて考えたい。
- ・親友とはどんな友達かを考えることができた。
- ・親友に友達と思われるようにしたい。そして、友達を親友と思いたい。人を大切に作る。
- ・僕は親友を作ることを大切にしていたけれど、自分がそんな存在になるのが先だなと思いました。
- ・自分を叱ってくれる上辺だけじゃない友達を大切にしたい。
- ・友達の理想像を見つけるたびに、自分も不安になってきたりして、より友達とは何かを考えた。
- ・本当の友達はそう簡単にできるものではないことがわかった。
- ・そこまで相手のことを親友として考えることができていないので、これから頑張ろうと思った。
- ・相手ばかりに求めるんじゃなくて、自分がまず、そんな人になりたいなと思いました。
- ・自分が求める友達になるのは難しいと思いました。
- ・本当の親友像は人の顔色をうかがって接するんじゃなくて、何でもはっきり言えるような人が親友の条件なのだとわかりました。私もそんな風になりたいです。
- ・「本当の友達」と自分を認めてくれる友達が欲しい。
- ・今、よく考えてみると、私には「友達」が少ないです。でも、「親友」はいます。それはとっても嬉しいことです。今日の授業を通して、すごく実感しました。
- ・今日の道徳を通して、親友を作るには、自分も誰かにとっての親友としてふさわしくならなければならないので、大変だと思いました。



全日本時代の写真

1年生:「オーストリアのマス川」

1年3組担任の朝倉先生が1年生の各クラスでリレー授業を行いました。お話の舞台はオーストリア。解禁日前日に大きな魚“グレーリング”を捕まえた主人公。しかし彼の心の中には複雑な思いが…

そこで、1年生では次の質問について考えてみました。今回も様々な意見が飛び交ったようです！！

1番うれしいのはどれでしょう？ それを選んだ理由は？



グレーリング(魚)を放す/ワルター(監視員)に見られる

- 違反をしなかったし、ワルターに褒められたから。もし持って帰っていたら少しこっかいをしたと思うから。
- 魚を放してしまっただけ、釣った魚を立派だと言われたから。
- 当然のことをしただけでワルターにほめられたから。
- 解禁日より1日早く釣ってしまったけど、ちゃんとルールを守って水中に放って、ルールを守っている日本人だとワルターにほめられたから。

グレーリングを持って帰る / ワルターに見られる

- 教えられたから。



グレーリングを放す/ワルターに見つからなかった(来なかった)

- 取ったうれしさをずっともっていたいし、他の人がとることを考えて、ということです。
- 誰にも見られなくても達成感がある。
- もし持って帰ってしまったら罪悪感が残るし、気持ちよくないから、そんな気持ちで食べるのは魚に失礼。
- きまりを守らずに魚をとったら、あとで罪悪感が残るし、釣り人としての良心と書いてあるから。
- ここで持って帰って、見つかっても見つからなくても、自分がしてしまったことに心残りがあると思うからです

グレーリング(魚)を放す/ワルターに見つからなかった(来なかった)

- 1日早いけど、持って帰った方が早く食べられて、いいと思ったから。
- 立派なグレーリングをやっとのことで取ったのにワルターが来なかったら早く食べることができた。
- ワルターが来なかったら立派なグレーリングを持って帰れたから。
- グレーリングを持って帰って食べたい。
- ワルターが来なかったら、いい思いをしてグレーリングを持って帰って食べられる。
- 大きなグレーリングを釣れたし、ワルターにも見つからなかったってことは、自分にとっていいことでしかないから。
- 悪いことをして誰にも見つからなかったら考えるとみんなうれしいと思うし、2キロを超えようと思える大きいグレーリングを持ち帰るといのは、かなりの得をするから。
- ワルターにばれずにグレーリングを持って帰ることができたら、つかまることもなく、大物をとることができるから。



<授業の感想>

- 自分にとって得なことはいっぱいやりたくなるけど、友達の“自分の気持ちを考えて、釣った他の人のために”という気持ちがすてきだと思いました。自分の得より、みんなとの規則を守れる人になりたいなと思います。
- 誰も見ていなくても正しいことをすることはとても大切だと思いました。でもいい事をすると思えば誰かが見てくれているなと思いました。
- 罪悪感、達成感という言葉が出てすごいと思った。